

代償大きい、飲酒運転 事故で後遺症の宮城さん

「自分と同じ思いを誰にもさせたくない」

2014年2月17日（月）10時45分

2005年に酒に酔った状態でオートバイを運転して事故を起こし、左半身まひなどの後遺症を負った宮城恵輔さん（29）が6日、沖縄の高校で講演した。

飲酒運転で五体満足のを傷つけ、家庭までを失った宮城さんは、「俺みたいになるな。頼む」と何度も訴えた。

動かない両腕を垂らし、左足を少し引きずって登場した宮城さん。

3年生100人が宮城さんの話を真剣な表情で聞いていた。

宮城さんは、21歳の誕生日、沖縄県のクラブで友人と酒を飲んだ後オートバイを運転し、米軍基地のフェンスに激突した。

左半身まひとなり、右肩の肩甲骨を失った体は、日常的な介護を必要とした。

「大黒柱の責任を果たせない」と、同級生の妻と生後3カ月だった娘の将来を案じ、離婚を選んだ。

生かされている意味も分からない日々の中、昨年10月に飲酒運転根絶県民大会で登壇したのを機に「自分と同じ思いを誰にもさせたくない」と体験を語り続けることを決意した。

支える側になりたいと引きもこり支援相談士の資格も取得し、人生を歩み直している。

最後に宮城さんは、生徒らを見詰め、「今の夢は飲酒運転をゼロにすること。自分一人ではできない。みんなも協力してほしい」と力を込めた。

講演を聞いた生徒は「飲酒運転の代償の大きさを考えさせられた。自分の行動に責任を持って生きていきたい」と語った。